

授業科目 学習・認知心理学

【担当教員名】 長塚 康弘	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修選択	必修
	単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	○
【概要・一般目標：GI0】 心理学の歴史および研究方法に関する基礎的知識の概要を学んだ後、人間行動の基礎となる学習および認知に関する最近の心理学的知識・情報を習得し、理解の深化をはかる。その際、心理学的な考え方の特質と併せて臨床および応用場面における学習および認知の意義についても学ぶ。				
【学習目標・行動目標：SBO】 学習及び認知に関する重要な用語・概念を知識として習得するのみではなく、それらが日常生活および職業労働の場における種々の問題にどのように現れ、さらに問題解決に役立っているかを理解する。				
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号
1	〈学習の心理学〉 学習の心理学的定義、学習の生じる諸側面（文字・言語、感覚-運動スキル、技能、社会的スキル等）、正の学習・負の学習（生活習慣病、学習性無力症、犯罪・非行等の手口、スポーツにおけるフォーム形成等）			学習方法・学習課題 備考・担当教員 原則として講義形式で行う。適宜質問を促し、ディスカッションを行なう。講義への積極的参加を期待する。種々のデモンストレーションのほか若干の実験（学習効果の転移や伝達による記憶の変容などについて）を予定している。
2	〈学習の心理学〉 学習の理論、連合理論（条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤理論）と認知理論（洞察、推論）			
3	〈学習の心理学〉 学習の規定要因、練習（反復）、学習結果のフィードバック、モチベーション、転移			
4	〈学習の心理学〉 記憶の諸相、研究法、忘却（量的側面と質的側面）、記憶・言語と大脳活動			
5	〈学習の心理学〉 問題解決過程としての思考、言語と思考、問題解決の方略、思考の阻害条件			
6	〈学習の心理学〉 知能の心理と発達、知能とパーソナリティ			
7	〈学習の心理学〉 創造性の心理 推理、推論、生産的思考			
8	〈認知の心理学〉 行動に影響を及ぼす認知の重要性、認知の諸相			
9	〈認知の心理学〉 感覚（認知の基礎（門）としての刺激感受）系の生理的構造 神経系と感覚系			
10	〈認知の心理学〉 感覚、知覚、認知の関係 成立過程、知覚の選択性と諸条件、特性			
11	〈認知の心理学〉 空間知覚と運動知覚			
12	〈認知の心理学〉 感覚・知覚のモダリティ（視、聴、味、嗅、触）と相互作用			
13	〈認知の心理学〉 知覚に及ぼす経験効果、パーソナリティの影響、認知と行動			
14	〈認知の心理学〉 認知と意識 覚醒、睡眠および夢の心理			
15	〈認知の心理学〉 感覚遮断（剥奪）(sensory deprivation) 研究、洗脳とは？			
【使用図書】	<書名> <著者名> <発行所> <発行年・価格 他>			
教科書 (必ず購入する書籍)	青木民雄、長塚康弘ほかによる心理学要論（福村出版）のうち、長塚担当の「知覚」および「意識」に関する章ほか学習および認知心理に関する章の冊子を使用する。購入方法については開講後に教室で伝達する。			202・1,000円
参考書				
その他の資料	随時資料プリント等を使用する。			
【評価方法】 出席状況、平素の学習状況および定期試験等の結果を総合して評価する。平素の学習状況についてはノート提出を求めて判断する。		【履修上の留意点】 1 聴講中の私語を厳に慎むこと。 2 授業中および時間外での積極的質問を期待する。		